

令和8年3月10日

関係各位

杉並区立松ノ木小学校
校長 笠原 秀浩

自己評価の結果

1 はじめに

本報告書は、杉並区教育委員会、保護者、そして地域住民の皆様に対し、令和7年度における松ノ木小学校の教育活動の成果と課題を客観的なデータに基づいて共有するために作成しました。次年度の教育活動の質を更に高めていくための参考といたします。

2 教育調査結果の比較

今年度の調査データを分析した結果、本校は多くの項目で杉並区の平均値を大きく上回る一方、特定の領域で支援の再構築が必要な状況が見られます。

評価対象	項目(肯定率:5と4の合計)	松ノ木小	区平均	差異
教職員	仕事への誇りややりがい(モチベーション)	93.8%	76.9%	+16.9
	学習のペースを自分で決める学びの推進	87.5%	69.5%	+18.0
	タブレット端末等のデジタル活用	93.8%	81.4%	+12.4
保護者	子どもの学校生活の満足度	81.7%	78.1%	+3.6
	欠席連絡等のオンライン化(利便性)	95.8%	91.0%	+4.8
	心の問題への支援(きめ細かな対応)	40.8%	44.8%	-4.0
	幼保小連携(円滑な接続への取組)	43.7%	47.7%	-4.0

◇ 教職員視点：教職員の高い士気

教職員の「誇りややりがい」が93.8%と、区平均を16.9ポイントも上回る非常に高い数値を示しています。この高い士気が原動力となり、自分のペースや方法を自分で決めて学ぶ「個別最適な学び(87.5%)」や、高度なデジタル活用(93.8%)といった、先進的な教育実践を力強く推進していると考えます。

◇ 保護者視点：満足度の向上と個の不安

学校生活への満足度(81.7%)やオンライン化による利便性向上(95.8%)は区平均を超えて評価されています。しかし、個々の「心の問題への支援(40.8%)」や「幼保小連携(43.7%)」については区平均を下回っており、保護者は教職員が捉えている以上に、個別のケアや就学時の接続に対して不安を感じている実態が見えます。

◇ CS(学校運営協議会)視点：ビジョンの共創

CS委員による評価では、「学ぶ楽しさ」や「教育目標の協議」が100%を記録しました。これは、地域が単なる「協力者」に留まらず、学校の目指す姿を教職員と共に描き出す「共創のパートナー」として機能していると考えます。

3 本校の「強み」と「弱み」

分析結果に基づき、本校の持続的成長に向けた「強み」と「弱み」を整理しました。

○ 強み

教職員の自己効力感と士気の高さ

仕事に誇りを持つ教職員集団が、ICTを道具として使いこなし、新しい学びの形を追求しています。常に前向きで質の高い指導が提供され、時代の変化に即した「探究する力」が育まれ、児童への好影響へと繋がっています。

「個別最適な学び」の定着

一斉授業ではなく、子ども自身が教材や進度を選択する「自律的な学習」が浸透しています。児童が自分で考え、判断し、責任を持って行動する主体的態度の形成に繋がっています。

● 弱み

自律の裏側にある「心の孤立」への懸念

学習の個別化が進む一方で、保護者の「心の支援」への評価は40.8%に留まっています。自由度が高まるほど、自己決定に負担を感じる子や、小さな悩みを抱える子のSOSを見落としてしまうリスクがある可能性が考えられます。

幼保小連携における認識の乖離

教職員の肯定率(56.3%)に対し、保護者の肯定率(43.7%)は低く、接続の不安が解消されていません。小学校入学時の「段差」が、保護者の安心感を損なう要因となっている可能性を検討します。

4 今年度の成果と次年度への課題

【成果】

本年度、本校は「個別最適な学び」の質的向上に注力してきました。教職員が非常に高いモチベーションを維持し、デジタルツールを駆使して「主体性を尊重する授業」を構築したことは、区平均を凌駕する数値となり、東京都教育委員会及び杉並区教育委員会から学校団体表彰を受けたことにつながっていると考えます。

【課題】

一方で、データとしては「個別の丁寧な関わり」に対する転換を求めていると考えます。次年度は、以下の2点を最優先事項に検討します。

1) 心のケアの構築

児童のコンディション把握や保護者の相談窓口を強化するなど、児童や保護者のセーフティネットを設置または強化することを検討します。

2) 幼保小連携の見える化

保護者の不安を払拭するため、就学前の幼児と小学生が交流している様子を、さらに積極的にアピールする機会を設けます。